

浪江の こころ通信

・第96号・



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。



「浪江のこころ通信／第96号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592

双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

「浪江のこころ通信」宛て

FAX.0240(34)4593



浪江町コスモス会

代表 渡部 一美さん(樋渡)・谷田 きよさん(権現堂)
吉崎 ヨシ子さん(両竹)・岩崎 仁紫さん(樋渡)
佐々木 勝さん(藤橋)・佐々木 理子さん(藤橋)

取材者：特定非営利活動法人くびき野NPOサポートセンター 新保
取材日：平成30年10月16日

会を閉じても、どこに行っても、ずっと続く“つながり” 柏崎市の浪江町コスモス会の皆さんに聞く



▲浪江町コスモス会の皆さん（代表の渡部一美さん 前列左）

◆会の活動について

渡部さん 毎月一回、10人程度の方々が柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」に集まり交流しています。時々旅行に行ったり、春にはお花見、秋には紅葉狩りなどにも出掛けたりしていましたよ。柏崎市に避難してきた方々が孤立しないようにと会を発足しましたが、会としては平成30年をもって一度閉じる予定です。会を閉じて、「あまやどり」で交流会なども開かれますし、個人個人のつながりが無くなるわけではありません。

取材に伺った日は、福島県から宮城県に避難されている方々と新潟県柏崎市に避難されている方々の交流会が開催された日でした。主催は一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム。当日は、宮城県内から参加した方が13人、柏崎市に避難している方が12人、総勢25人が柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」に集まりました。

◆皆さんの近況や会について思

こと

谷田さん 現在、病気を患ってしまい、病院と自宅の往復で一日一日を忙しくしています。会には発足時から参加していますが、浪江の方々と話ができるのがうれしいです。しかし最近、会のメンバーの一人が亡くなつてしまい、とても悲しく思っています。

吉崎さん 柏崎市に引っ越してきてから主人が亡くなり、今は娘と一緒に暮らしています。平成25年4月ごろから会に参加していて、月一回の集まりや旅行が本当に楽しみでした。



岩崎さん 会には、当初は妻が

一生懸命参加していました。自分で作った切り絵やアクセサリーを皆さんに見てもらえるのを楽しみにしていたようです。妻は9月に亡くなってしまいました

したが、その時期を境に私も少しずつ参加するようになりまして。現在は、息子と一緒に柏崎市で暮らしています。

佐々木理子さん 娘が柏崎市に住んでいたのですが、こちらにきました。5年ほど前から会に参加させていただき、会の皆さんと会えるのを楽しみにしています。

佐々木勝さん 私は現在、柏崎市と福島市の2か所で生活しています。浪江では兼業農家でした。柏崎市の家には畑はありませんが、福島市の家では家庭菜園をやっています。会には、妻

(理子さん)と一緒に参加しています。同じ故郷の方々と顔を見ながら話せることで、故郷を思い出して気持ちが穏やかになりますね。

◆これからの思いや浪江への思い

谷田さん 「思い」はいっぱい

あるけれど、「希望」が持てない。浪江の自宅も8年もの間留守にしていると、生活できる状態ではないだろうし。浪江は本当に良いところだったので戻りたい気持ちはあるが、複雑な気持ちです。

吉崎さん 浪江には、1年に1回帰っていますが、家が無くなってしまい、景色も変わってしまいいもう戻れないかな。柏崎市での暮らしにも少しずつ慣れてきました。これからここで暮らしていくことを考えています。

岩崎さん こちらで仕事はあっても、だんだん体も弱ってきました。私は長野県出身で浪江が故郷ではありませんが、今の状況はともつらいですね。

佐々木理子さん どこに住んでも、やっぱり浪江が一番落ち着く。柏崎市で昨年体験した大雪は大変でしたよ。これからも年を重ねていくけど、元気でいられたらそれでいい。

佐々木勝さん 当初のプランとは違い、7年という歳月が掛かってしまっている。3、4年の間に帰れる道筋ができればよ



▲交流場所である「あまやどり」の様子

かったなと思う。浪江に「帰る」「帰らない」で人々を分けるのではなく、行政には「若者が帰ることができる」町づくりをしてほしいです。10年、50年、100年先まで…。自分は70年の人生を過ごしてきました。自分を育ててくれた故郷を大事に、前を向いていきたい。素敵な出会いと思いがありません。私自身、しばらくは新潟市で生活していますが、これからもこのつながりを大事にしていきたいと思えます。

渡部さん 会では、皆さんの



▲メンバーが作った作品の展示も